

西小倉地域小中一貫校整備検討委員会

第6回 学校部会会議録

日 時 令和4年6月7日（火） 19時00分 開議

場 所 宇治市立西小倉中学校 視聴覚室

会 議 日 程

1. 学校部会協議

- ①開会
- ②意見交換会のまとめ
- ③西小倉地域小中一貫校計画素案について
- ④その他
- ⑤閉会

会議に付した事項 会議日程に同じ

出席者

(委員長)

山 花 啓 伸

(副委員長)

岩 井 浩

(部会長)

渡 邊 和 孝

(委員)

井戸本道衛 門 脇 洋 子 伊 藤 敏 雄 栗下加代子

渡 邊 和 孝 中 野 正 彦 手塚ゆかり 上 田 智 子

米 村 洋 行 中 西 夏 子 中 尾 和 之

(事務局 教育委員会)

学校改革推進課長 吉 川 貴 之 学校改革推進課副課長 山 口 立 彦

学校改革推進課総括指導主事 坂 上 敬 宣 学校改革推進課 半 田 悠 祐

学校改革推進課 瀬 野 克 幸

(事務局 建設部)

施設建築課長 塩 谷 知 子 施設建築課副課長 池 本 泰

施設建築課 西 尾 信 吾 施設建築課 青 木 郁 弥

開 会 (19時00分)

1. 学校部会協議

① 開会

部会長が「西小倉地域小中一貫校整備検討委員会第6回学校部会」の開会を宣言する。

② 西小倉地域小中一貫校整備に関する意見交換会のまとめ

渡邊委員が西小倉小学校での意見交換会について報告する。

西小倉小学校での意見交換会では、主にグラウンドについて、校舎への出入り口について、給食について、校舎について、通学路についての5点とその他の意見が出ました。それぞれの項目について主だったところを報告します。

具体的には、『グラウンドについては、広いグラウンドが必要なので、消防署の移転は考えていないのか。南小倉小学校を第2グラウンドにしてはどうか。西小倉中学校では狭いのではないのか。サブグラウンドについて、公園の広さしかなく、狭いのではないのか。放課後の遊び場として、公園では遊べないので、小学生の遊び場が必要である。』といった意見が出ました。

学校への出入り口については、『西小倉中学校は入り口も狭いし、歩道もないので児童生徒が増えてくるので建ってからが心配。』といった意見が出ました。

給食については、『給食室は自校方式が望まれる、できれば中学生にも自校で調理した給食を食べさせたい。』といった意見が出た。

校舎については、『回廊型であれば、北側との民家との距離が大丈夫か。プライバシーのことも心配である。』といった意見が出ました。また、回廊型では『出会頭に当たるなど心配な面があることがとても心配。見栄えより、安全面を重視してほしい。』といった意見が出ました。

通学路については、『北小倉小学校からは遠くなるが、バスは通るのか。』といった意見が出ました。

それ以外の意見としまして、『避難所はどうなるのか。コンセプトについて、インシヤルコストのことが書かれていることに違和感がある。』といった意見も出ました。『子どものいる親は出にくい時間帯の意見交換会なので、考えてほしい。』といった意見が出ました。

手塚委員が南小倉小学校での意見交換会について報告する。

南小倉小学校での意見交換会では、大きく分けて4つ、グラウンドについて、給食について、校舎について、小中一貫教育のメリット、デメリットについて、その他といった意見が出ました。

グラウンドについては、『グラウンドが狭いのではないか。活動に制限がでるのではないか。』といった意見が出ました。『子どもが外で遊べるように、小学校・中学校のグラウンドを市として準備してほしい。放課後に遊ぶ場所が必要なので南小倉小学校のグラウンドを使うなどしてもらいたい。グラウンドが減るので、部活や地域開放についても考えてほしい。』といった意見が出ました。

給食については、『ぜひ自校方式で。』という強い要望が出ていました。『給食は中学校も自校方式で希望したい。』といった意見が出ていました。

校舎については、『回廊型の場合は日当たりが心配という意見が出ていました。また、教室の広さは十分確保してもらいたい。他の学校をたくさん見ても良いのではないか。』といった意見が出ていました。

小中一貫校のメリット・デメリットについては、『一貫校のメリットは何なのか。何ができるのかわからないので不安が大きい。学校ができあがれば学校は地域の宝になるので、宇治黄檗学園の総括を活かして十分検討してほしい。』といった意見が出ました。

その他には、『施設面や教師の人材の確保も含めて、良い学校をつくってほしい。』という強い要望が出ています。開放関係、避難所関係の意見も出ていました。また、『説明会についてもスケジュールと責任の所在を明確にしてほしい。説明会の案内が遅く、地域回覧も回っていないところがあった。』といった意見が出ました。

以上です。

中野委員が北小倉小学校での意見交換会について報告する。

北小倉小学校での意見交換会では、大きく5点の意見が出ていました。通学路について、校舎について、給食について、今後のスケジュール・説明会について、その他についての意見が出ました。

通学路については、『北小倉小学校からは低学年は遠い。北小倉の子たちは、通うには一番遠くなる。大人でも20分かかかる。小1、2、3年生だと30分かかかる。その間に車との接触、不審者なども心配。見通しの良い歩行者道路が整備できるのであれば応援したい。』などの意見が出ました。

校舎については、A案、B案についてそれぞれの意見が出ました。『A案では、使う目的をあらかじめ決めてから使うのではなく、使い方を考えていくのが面白いし、課題を見つける力も付くと思う。A案の方が余白が多い。通気も良いと思う。分かりやすい教室配置がいい。A案は新しいが曲がり角が多く、怪我がないかが心配。口型は風の通りが疑問だ。窓を考えると違うのかもしれないが、設計でうまくいくのかもわからないが、風通しは悪そうだ。B案は目新しさはないが、安全な使いやすさ、採光を大事に設計してほしい。A案は管理しやすい牢獄のイメージだ。』といった意見が出ました。

給食については、『中学生にもぜひ小学校で作った給食を食べてもらいたいという意見が出ていた。給食は食育に関わる施設だ。ぜひ入れてほしい。』といった意見が出ました。

今後のスケジュール・説明会については、『今後スケジュールをいつまでに作るか、市が説明会を開いてほしい。基本計画を示すのに説明会はあるか?』といった意見が出ました。

その他、『設計管理費は入っているのか?どのコンセプトも素晴らしいので、地域のこと学校のこと考えて実現できたらよい。しかし、どのくらいの予算があるのか、分からないと意見を出しづらい。公表できるか。』といった意見が出ました。

以上です。

事務局から意見交換会で出た質問についての考え方を説明する。

広いグラウンドを確保してほしいについては、グラウンドの面積は、約13,000㎡を確保します。サブグラウンドだけで小学生が授業を行うのかという質問では、小学生も中学生もメイングラウンドで行う授業を行うが、授業の内容により複数の授業の同時実施が難しい場合、種目によってはサブグラウンドの使用を想定しています。

第2グラウンドを確保してほしいといった意見については、同一敷地外のグラウンドにつきましては、移動時間による授業時間やカリキュラムへの影響が避けられず、加えて児童生徒の移動時や現地での安全確保にも課題が大きいため、設置を考えていません。

西小倉小学校には雨水貯留施設がありグラウンドが維持されるため、少なくともグラウンドの形としては残る予定です。地域での利用についても今後、地域部会での意見を踏まえ、市として検討していきます。

A案の回廊型は教室が暗いのではないかとといった意見については、回廊型は中庭から光を取り入れる構造となっており、他市の先進事例においても、箕面市立彩都の丘学園では、中庭があるため、十分な明るさを確保できると聞いています。

校舎が住宅に近い、プライバシーが守られるのかといった意見については、どちらのプランでも、校舎は住宅との距離を少なくとも15m程度確保します。また、ひさしやフェンス、植栽の設置等、今後プライバシーを守るための対策を設計の中で検討していきます。また、北側には使用頻度の低い特別教室等を配置していくことも検討します。

回廊型は生徒がぶつかるのではないかとといった意見については、彩都の丘学園にお聞きしたが、特にそのようなことはない聞いています。どちらのプランでも、視認性が十分確保できるよう対策を実施します。

A案が管理しやすいイメージで牢獄のようだという意見がありましたが、B案の方が視認性が良く管理しやすいようであります。どちらの案も工夫していく必要があります。よりどういった形にすれば基本コンセプトを実現できるのかということに立ち返って進めていきたいと思えます。

通学路については、小倉町の蓮池が最大1.9kmであります。バスが出せないかという話が出ていましたが、宇治市では同等、それ以上の地域があります。例えば宇治小の羽戸山ですと2.1kmで高度差が40mほどあります。西小倉ではほぼ平坦であります。だからといっていないという単純論法ではありませんがそういったことも踏まえて

考えていく必要があります。菟道第二小学校の半白では 1.9 km 高度差で 60m 程度あります。ですので、今回の西小倉地域小中一貫では宇治市の中ではそれほど遠いといったことではないが、そういった意見を大事にしていきたいと考えています。学校部会の中でも話にありましたが、置き勉をしやすい工夫、通学路の安全対策、児童生徒の通学の負担軽減については今後検討していきたいと思っています。

給食は自校方式で行ってほしいといった意見については、宇治市では現在、中学校はセンター方式、小学校は自校方式となっています。今後基本計画の中で、検討していきます。

施設一体型の小中一貫教育のメリットについては、宇治市では平成 24 年度より全市で小中一貫教育を行っており、施設分離型、施設一体型の 2 つの形態の小中一貫教育を行っております。施設一体型一貫校ならではのメリットとして、小学校、中学校の垣根を超えて教師間の連携がより密に行えること、それが切れ目のない細やかな生徒指導につながり、教師・生徒の信頼関係が引き継がれていく、という点があります。また、小学生と中学生が同じ場所にいることの利点として、小学生は、身近で中学生の姿を見ながら小学生があこがれる、ビジョンを持ちながら育っていく、中学生は、小学生の姿を見ながらよりリーダーシップを発揮する、そのような環境の中で育つことで、子どもたちが自己有用感を育んでいくことです。小学生が中学校生活を自然に体感・理解する環境にあることから、小中一貫教育についてのアンケート調査では、中学校生活に対して不安・悩みがあるとの 6 年生児童の回答が他校より低い割合を示しています。一方で、児童・生徒の人間関係や環境の変化が乏しいといった点があり、その点については、宇治黄檗学園でも、子どもたちが小学校、中学校のしっかりとした節目を意識できるよう学校運営に努めていると聞いております。

設計管理費は入っているのかという質問がありましたが、これは入っておりません。他にも質問はあったかと思いますが、大きなものとしましては以上となります。

[質 疑]

[委員] 今聞いた説明を地域に返す機会はあるのか。

[事務局] 何かしらの発信していけるような方法を検討していきたいと考えていく。

[委員] 事務局がもう少し資料を提示してくれてもいいのではないか。A 案にしても B 案にしてももう少し詳しい情報がないと検討のしようがないのではないか。

[事務局] 改めてどんな意見が出たのかわかるようにしていく。A 案 B 案については間取り等分らない素案であり、だいたいのレイアウトしかわからない。今後、基本計画の中でわかってくる。今示せる資料はこれしかないので申し訳ないが、今後説明していきたい。

[委員] ぜひ市教委の回答を広報してもらいたい。今後、基本計画、基本設計、実施設計と進んでいくと思うが、基本計画では、A 案、B 案の両方のも

のが出るのか。また、昨日町内会に対する説明会が実施されたと聞いているが、どのような内容だったのか。

〔事務局〕 現在は基本計画の素案の段階であり、最終的には宇治市で配置イメージ案でA案、B案のどちらかにしぼる。その後、意見をいただき、基本設計に反映していく。その後実施設計に入っていく。

昨日、西小倉中学校グラウンド北側に隣接する遊田南町内会で説明会を実施し、西小倉中学校に令和8年に一貫校の開校を目指している経緯、北側に校舎を建設することになり住宅と校舎が近くなること等を説明した。住民の方々からは、北側への校舎配置について再検討してほしい、違う方法はないのか、意見交換会で出た意見と同じような意見が出た。今後しっかりと説明していきたい。その説明の中で、今の資料に高さは約20m以内、校舎と住宅の距離が約15m、校舎の幅が約11.5mと付け加えた資料をもとに説明した。

〔委員〕 学校部会として最終どこまでを求められているのか。いつまでにどんな内容を決めるのかといったおおまかなスケジュールを教えてください。

〔委員〕 資料に今言った距離等の情報が入っていて当たり前。西小倉中学校に建設するというのも宇治市が勝手に決めた。今度はそうならないようにしてほしい。

〔委員〕 北小倉小の方は西小倉中学校と接点がないので広報誌を出すなら通学路や通学範囲についてどこからどこまでになるのかわかるようにしてほしい。

〔委員〕 計画のスケジュールを地域の方にも知らせていってはどうか。委員が持っている資料のようなものを地域の方に広報してはどうか。

〔委員〕 自治会に加盟しておらず西小倉地域小中一貫校整備検討委員会だけが配付、回覧されていない地域がある。まわっていない地域にもまわるようにしてもらいたい。

〔部会長〕 意見交換会での意見に対する回答は広報誌等で見てもらえるようにしてほしい。会議録等も2次元コード等を使い、周知していくようにしてほしい。資料も見やすくして広報してほしい。

箕面の彩都の丘学園はどれぐらいの規模なのか。

〔事務局〕 現在は1550人、開校当初は71人

〔委員〕 そこは知っているがそもそも面積が違うのでは。

〔事務局〕 先ほどの説明の中でぶつかる心配はないといったが、少し違い、曲がり角が多いことでぶつかる心配はあるがむしろメリットの方が多いという回答であった。

〔部会長〕 学校規模が違えば校舎の大きさも違うので単純比較ができるのかと興味があった。

〔委員〕 A案、B案の検討は今日が最後になるのか。第2グラウンドは考えてい

ないとあったが、部活動はどうするのか。

〔部会長〕 意見交換会での質問なので、A案、B案についてはこの後の協議で行う。

〔委員〕 今の西小倉中学校のグラウンドでは狭いのではないかと。のびのびと部活ができるグラウンドを確保してほしい。意見交換会に3回出席して西小倉地域は地域とのつながりが深いことがわかった。黄檗とは違う。青少協等の助けがあってこそ成り立つ。このままでは学校は地域から孤立してしまうのではないかと。

〔事務局〕 西小倉地域小中一貫校のグラウンドを部活動でも使用すると考えている。

〔委員〕 現在の西小倉中学校の保護者からはグラウンドを使う部活が形見の狭い思いをしていると聞いているが、そこに北小倉生徒が入ってくるとさらにグラウンドが足らなくなるのではないかと。せめて南小倉小学校のグラウンド半分だけでも部活動に使えないのか。

3小学校での意見交換会に参加し、西小倉地域は地域と学校がつながりがとても深いということが分かった。青少協、体振、見守り隊の方々の助けがあってこそ子どもたちが安心して学校に通えていることがわかった。教育課程内のことに地域の活動や子どもたちの放課後の遊びも入らなければ地域から孤立してしまうのではないかと。西小倉地域では地域との結びつきのある学校を目指してはどうかと感じた。部活動の活動場所についても検討していただきたい。

③ 西小倉地域小中一貫校計画素案について

事務局より説明する。

〔説明〕

それでは、「(仮称)西小倉地域小中一貫校計画素案」について、説明いたします。この間、市教委では、西小倉地域小中一貫校の基本コンセプトをもとに、学校部会でいただいたご意見を踏まえながら、西小倉地域の子どもたちが、整備の方向性について検討を進めてまいりました。

そのひとつの結実が、前回の学校部会でもお示しした、「(仮称)西小倉地域小中一貫校計画素案」となっているわけでございます。宇治市では、平成24年度より全市で小中一貫教育を実施し今年で10年を迎えます。その中で、施設一体型小中一貫校として開校した宇治黄檗学園でつちかってきた、9年間の系統的・継続的な学習指導と生徒指導を、新しくできる西小倉地域小中一貫校にも活かしてまいりたい、そのように考えているところでございます。

従いまして、今後の施設整備の方向を決めていくにあたっては、今一度、基本コンセプトに立ち返り、A案B案どちらが、より宇治市の目指す小中一貫教育がより理想的に行うことができるのかという視点に立って、検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。

それでは、A案、B案それぞれについて、市教委としての現在の考え方を説明させていただきます。

施設一体型一貫校ならではのメリットとして、小学校、中学校の教師間の連携がより密に行えること、それが切れ目のない細やかな生徒指導につながる、という点があります。

また、小学生と中学生が同じ場所にいることのメリット、つまり、小学生は、身近で中学生の姿を見ながら小学生があこがれる、ビジョンを持ちながら育っていく、中学生は、小学生の姿を見ながらよりリーダーシップを発揮する、そのような環境の中で育つということがメリットあると考えております。

そのためには、必ずしも小学生と中学生が直接交流する、触れ合うということだけでなく、より自然な形で、互いの頑張っている姿が見える、という環境とすることが、子どもたちのあこがれや、リーダーシップを育むために、重要であると考えております。

まず、A案ですが、中庭及び中庭と一体利用可能な交流エリアが異学年交流の場となるほか、イベントや屋外学習等、柔軟で創造的な学びに対応した活動が可能となっております。また、回廊型構造により、異学年の活動の様子が校舎全体から見渡せることにより、子どもたちが異学年や多様な学びへの関心を抱きながら、成長と共に関係世界を広げていくことができる探究心を育むことができると考えております。

次に、施設一体型では、体育館、特別教室の一部を小学生と中学生が共有する、という状況があり、動線の複雑化、重複がどうしても課題となります。その点についても、回廊型では動線をコンパクトにすることができるメリットがあります。

また、デメリットとしては、意見交換会でも指摘がありましたが、南側ではない教室の日照の問題、出会いがしらにぶつかるのではないかと、ということが挙げられます。

次に、B案ですが、メリットとして普通教室がすべて南側に向いていることにより、理想的な日照が確保できます。また、宇治市の大半の学校がこのような配置となっていることもあり、教員の方々も安心して指導いただけるのではないかなと考えております。

しかしながら、全ての教室を南側に配置しているため、場所によっては、体育館、特別教室への動線が長くなってしまう、というデメリットがあります。

また、B案でも交流スペースを配置することで交流を促すことは十分に可能であるとは考えているところでございます。

以上でございます。

[質 疑]

[委員] 何故資料をくれないのか。話を聞くだけでは分かりにくい。資料を配付してもらわなければ都合の悪いことは隠しているといったように悪いようにしかとれない。

[部会長] 資料については準備していただいた方が良くと思う。会議の時間短縮に

もつながる。

今の段階で意見を言ってほしいと言われても何を言っているのか分かりづらい。しぼって意見を言っていたらと思うが、市教委としてどんな意見をいただきたいのか。

[事務局] A案、B案についての形についての率直な意見を言ってもらいたい。A案ならこんなこと、B案ならこんなことができるのかなど。

[委員] この資料をもとに意見を言えればいいのか。

[事務局] 現在ではここまでの情報までしかしめせないの、ここまでのことで意見をいただきたい。この段階での意見を聞いていきたい。その後、基本計画、基本設計、実施設計ごとに意見を聞きたい。

[委員] B案の質問だが、中庭の横と体育館横は普通教室として使用されるのか。

[事務局] 普通教室は南側を想定している。

[委員] 宇治黄檗学園で働いていたが、宇治黄檗学園はメイングラウンドの横に中学校の教室があったが、テスト期間中はどんなに晴れていても小学生がグラウンドで遊ばずに教室でトランプをしていたことに違和感を覚えた。次の一貫校ではメイングラウンド側に中学生の教室がこないようにしてほしいと思っていた。

A案は角が4つあり、私自身は安全が第一だと考えるのでぶつかってけがをすることよりもメリットの方がという説明は違うと感じた。私は給食のワゴンを運ぶときにも角の内側に入りながら運ぶ。A案ならカーブミラーなどが必要なのではないか。私個人としてはB案みtainな開放的な造りで、メイングラウンド側に中学生がこない配置がいいなおもった。また、A案についてもメリットがあって確かに一体感が育まれるような構造だと思うが考えていけないのは生指上の問題だと思う。西小倉地域という常に問題なく生活できているわけではないと思う。体の大きな子がぐるぐる回りながら鬼ごっこをするのではなどいろんなことを想定しておくべき。子どもの特性として回るのが大好きで、安全を考えればB案でグラウンド側に中学生が配置しないようにしてほしい。

[委員] グラウンドとテニスコートとかいてあるが、北宇治中だとグラウンドにバレーコートやバスケットコートなどもある。このグラウンドにそういったスペースはあるのか。あとトラックはどうなるのか。野球をできるスペースはどうなるのか。部活動をどのようにしてくのか分かるようにしてほしい。

[委員] 自分の子どもが登校しぶりだが、昇降口を一緒にすることにいい面と悪い面があると思うが、大きいお兄ちゃんお姉ちゃんがいると小さい2年生、3年生は怖くて同じ昇降口だと怖い。登校しぶりの子どもがもっと行きたくなくなるのではないかと。

宇治黄檗学園にいたときにずっと7年生が主役だった。6年生が主役になれる縦割り活動を大事にほしい。それに慣れてきたら4・3・2制に徐々に変わっていけばいいのではないかな。

[委員] A案の方だとぐるっと回って昇降口へ行くのか。

[事務局] 動線がグラウンドを通っているように見えるが校舎沿いを通って入ることになる。北側の動線でまったく車が入らないということは言えないので、児童の動線と車の動線を分けたときに、このような校舎沿いの動線となってくる。

[委員] 北側からも車が入るのか。

[事務局] メインは東側だが、現時点では北側から全く入らないとは言えない。北側からも入るのではないかと、どちらでも考えられる動線として示してある。

[委員] A案では角がぶつかって怪我するとの意見があったが、今は建築も進んでいるので、角のない丸い柱もできる。

[部会長] B案の教室棟とアリーナ等の間の四角い部分は何なのか

[事務局] 宇治黄檗学園でいうところの交流ホールのようなスペースにしたいと考えている。どちらの案でも地域の方にも使っていただける。また、異学年交流を促していけるスペースにしていきたいと考えている。

[委員] 何階建てになる予定か。

[事務局] 高いところで4階まである、場所によって3階のところもある建物になる予定。

[委員] 1フロアに2学年ずつくらい入るイメージか。

[事務局] 1階はいろんな機能が集中しているので、普通教室としては2階以上が中心となり、そうなってくると2・3・4階に2学年ないし3学年が入ることとなる。まだそこも未定であるが。

[委員] A案でグラウンドに面したところにどれだけ普通教室がはいるのか。言い方を変えると普通教室がグラウンド側とサブグラウンド側を想定しているのか。

[事務局] 基本的には回廊型は日当たりを意識して、南側と東側になる見込みである。まだ、決定していないが。北側はプライバシーのこともあるので、使用頻度も低い特別教室を持っていけるようにしていく。現場の先生に聞くと特別教室は普通教室に比べて日当たりは求められないので、北側に特別教室をもっていきたい。

[委員] グラウンドの向こう側のお住いの方々のことを考えると少しでも低い建物をもっていった方がいいのかと考えると校舎の口の字型と体育館を逆にすると少しでも迷惑は防げるのではないかな。

[事務局] 体育館は一般的に低いイメージだが、宇治黄檗学園の第2体育館が天井が低くて使いづらいという話があった。体育館は天井部分も含めると普

通教室の2倍の高さになる。20m以下にはなるが、必ずしも体育館だから4階建てよりも低いということにはならないと聞いている。それも確定ではないが、同じくらいの高さと聞いている。

〔委員〕 近隣の方々に十分配慮していただきたい。

〔事務局〕 もちろんそのことは大切にしていきたい。

〔委員〕 育成の子どもたちが放課後サブグラウンドや中庭や遊具で遊ぶことになると思うが、遊具はどのあたりに配置され、中庭への移動方法はどのようなになるか。

〔事務局〕 小学校では遊具があり、中学校には高鉄棒などはあるが遊具はない。そう考えるとメイングラウンドに遊具は考えにくい。中庭にも遊具は置けない。ここにかいているエリア以外、菜園やそれ以外のエリアで確保していきたいがまだ確定はしていない。

〔委員〕 水害の場合などの避難時、第1、第2体育館やプールの活用はどう考えているか。

〔事務局〕 西小倉地域の核となる学校となるので、避難所の機能としての重要性は学校部会でも出されていた。浸水しない場所に体育館の1つは設置していきたい。A案でもB案でも避難所と並行して学校運営も行えるように避難所エリアと教育エリアを分けられるようにしていきたい。

〔部会長〕 話し合いは今後もあると思うので、資料を整えていただいたり、今後のスケジュール等も整理していただいたりしておいてほしい。

避難の動線は想定しているのか。この図を見ると昇降口は1か所になっているが避難や登校しぶり、別室登校の児童生徒の対応等も含めて検討していただきたい。

〔委員〕 教育委員会からの基本計画についての説明はあるのか。

〔事務局〕 今後また進んできた折にはご説明させていただく機会はあると思う。意見交換会を踏まえた発信の仕方は考えていきたい。方向が決まればここで報告したい。

〔委員〕 決まったことについて意見が言いにくいと感じている人もいるので検討してほしい。

④ その他

事務局より説明する。

いつもであればこの場で次回の日程調整を行っているところではありますが、現在の段階では、開催時期がいつになるか決定しておりません。今後、電話やメール等で日程調整を行い、案内文書を送付いたします。

⑤ 閉会

部会長が閉会を宣言する。

閉 会 (21時00分)